

published by  
生徒会

暑い夏！号

# Gyosyu News



## 輝く！チームワーク & 個人技

### 熱戦！部活動

#### 東海大会出場！柔道部



今年の中学  
生3年生は期  
待の星が多い  
この夏は柔道  
部の活躍が光

った。その名は、笹津備永。中学3年の中では身長が高い方なのでかなり目立ちそのキャラから多くの同級生から親しみを寄せている。彼の結果は、東海大会優勝・県大会三位・東海大会ベスト8。

普段彼は、高校生とともに練習をしている。練習で努力した事や試合で工夫した事などについて聞いてみた。「毎日高校生と練習をして、家でも自主トレをして努力を重ねてきた。高校生は強いので投げられても後ろに下がらずに向かっていくようにした。」とたくましい返答であった。彼の躍進は、これからも続く。(中3石井)

#### 続々と、県大会出場



陸上中体連大会において、400M種目で県大会出場を果たした

竹谷一輝くん(中3)に取材した。S(佐伯)「練習で大変だったことは何ですか？」

T(竹谷)「部員が少ない中で、競い合って自分たちを高めていくことです。」

S「陸上部に入ってよかったと思ったことは？」

T「早く走れるようになって、日常生活でも様々な場面で役立つことです。」

S「先輩やこれから陸上部に入ってくる人たちに一言！」

T「タイムが伸びずに、つらいときもあるけれど、諦めず走り続ければおのずと結果はついてくるので、がんばってください。」

#### ●中学サッカー部

中体連市内大会で優勝を果たし、県大会に臨んだ中学サッカー部の福嶋圭亮くん(中3)に練習風景を語ってもらった。「練習時間を少しでも長くするようにしたらいいので、練習中はできるだけと動くようにしている。そして、毎回の練習で、自分の反省点を見つけ、それを改善できるように意識している。」部長として振り返って「一番声を出しチームをまとめようとしてきた。その中で、仲間の意見をしっかりと聞き、最終的にどうするかを自分で考え、チームみんなが納得するように意見を伝えてきた。」と責任感の大きさを見せてくれた。また、「監督に言われたことを一度で理解し、ミスをせずに練習に励んでいくうちに、チームもまとまりを見せてきた。その成果、県大会出場という目標を達成できた。」と満足いく結果を残した自負を見せた。(高2涌島)

#### 一致団結の中学男女テニス部

中体連の県大会に出場し、大健闘した男子テニス部の部長、矢尾尚大くん(中3)と、女子テニス部の部長、保坂紗希さん(中3)に話を聞いた。

N(西島)「中体連の結果はいかがでしたか？」

Y(矢尾)「市内ベスト3に入っ  
て、県大会ではベスト32でした。最後にいい結果を残せたと思います！」

N「中体連で楽しめたことはどのようなことでしたか？」

Y「今年で最後の中体連だったので、思いっきりプレーしました！やっぱり全力でテニスしていると、きが一番楽しかったですね。」

N「部活で楽しめたことはどのようなことでしたか？」

H(保坂)「部活で練習を重ねていくうちにコースに狙ってボールを打てるようになったときは凄くテニスが楽しかったです！」N部

活に入っていて学んだことは何ですか？」

Y「仲間との連携と絆ですかね。他校にも大会などを通じて友達が多かったので、テニス部に入っている良かったです。」

H「仲間と協力する大切さ、勝つた時の嬉しさ、部長として皆をまとめる大変さ。他にも色々学びました。」

N「最後に、後輩の皆さんに一言どうぞ。」

Y「これからも強くあり続けてほしいです！やっぱり県大会には行ってほしいなあ。(笑)」

H「新戦力の一年生も加わり、暁秀女子テニス部がさらに強くなると目標を達成することを期待しています！」



(中2西島)

#### たくましい泳ぎ！

今年の県大会で県大会出場を決めた水泳部の森野悠雲くん(中3)。最後の大会が終わって、私達は彼の心情について聞いてみた。

「今回中学校生活で初めて行った水泳の県大会だったけど、予選だけで終わって、悲しい結果となった。でも、そんな中でも今は他のチームや高校生と練習して来年に向けてもっともっと水泳の力をつけている。今回の中体連は終わってしまったし、結果もしようがないけど、希望を捨てずに来年も水泳を続けたい」と前向きだ。実は、

彼が一時水泳を続けるかどうか悩んでいるのをクラスメイトとして見てきた。それでも、中学最後の大会で決めた県大会出場。それは彼が努力家だから成し遂げたことであろう。今後彼の輝かしい姿を見られることを期待している。

「中体連」…この言葉、きつと誰もが聞いたことがあるだろう。運動部にとっては青春の一ページ。中学生ならではの熱き魂が燃えあ

がる！というような感じだろうか。水泳部の中体連について、萩田健一くん(中2)にインタビューをした。

杉山「県大会はいかがでしたか？」

萩原「会場はとても広く、何百席もある観客席が埋め尽くされていて、とても緊張した。その緊張というの、人が大勢いるから、などの理由ではなく、結果が出せるかどうかの心配による緊張であった。県大会のレベルの高さを改めて知った。」

県大会で惜しくも敗退したそうですが、個人的には、県大会に行けるといっただけでもすごいと感じた。(中2杉山)

#### さらなる高みへ…

剣道部の中体連では、個人戦と団体戦があった。団体戦ではチームで一致団結して頑張ったが、惜しくも負けてしまった。エース中尾亮太くん(中3)は個人戦で、先制したが、残念ながらその後同点に追いつかれ、最後の最後、同時に打ったものの、きわどい判定で敗退となった。彼は、「高校からさらに頑張り、今までの以上のパフォーマンスをしたいと逆にモチベーションになったので、さらなる高みを目指そうと思います。」と意気込んでいたので、来年も期待できそうだ。(中3住田)

#### 高校男子テニス部、沼津市で好成績残す

高校男子テニス部は、8月20日の登校日までに3つの大きな大会に参加した。7月25日と26日には沼津市高校シングルス大会、8月7日には新人戦シングルス東部地区大会、そして8月10日には平杯ダブルス東部地区大会があった。この中の沼津市高校シングルス大会において大きな成果を上げることができた。秋山開成くん(高2)と寺田悠起くん(高2)がベスト

32入りを果たし、なんと秋山くんは沼津市で6位という偉業を成し遂げた。大会は猛暑の中開催され、中には熱中症に苦しんだ選手もいたが、そんな過酷な状況の中でも二人は素晴らしい活躍ぶりをみせてくれた。(高2古家)

#### 高校卓球部、汗握る激闘

夏の大会を終えた高校卓球部、寺尾颯登くん(高2)に大会の感想、反省点をインタビューした。Y(山本)「今回の大会は全体的にどうでしたか？」

T(寺尾)「自分にとって新しい試合スタイルを体験できました。また、とにかく暑くて一試合が終わったところには汗が凄く出て、ラケットを持って滑っていいサーブが打てなかったり、集中できなかったりしました。」

Y「チームの雰囲気はどうでしたか？」

T「僕たちのチームは一体感があるチームとは言い難いですが、今後はチームメイト同士お互いに支えあっていけるチームになりたいと思います。」

Y「今回の大会を踏まえて改善点は見つかりましたか？」

T「サーブの種類を増やすことや、焦らず冷静にドライブを打つことが改善点だと思います。」

Y「次の大会の目標を教えてください！」

T「今回の大会で見つけた改善点を克服してよりいい試合をすることです。」(高2山本)

#### 厚い選手層、上位独占 中高バドミントン部

市内大会ダブルスの部で優勝を果たした大利真優さん、赤尾美羽さん(共に高1)を始め上位入賞を暁秀生で席巻した。また、中学バドミントン部も男女共に中体連では市内優勝、県大会へコマを進め女子は団体戦で5位に輝いた。

### 吹奏楽部の夏の戦い

8月2日に富士市ロゼシアターで行われた東海吹奏楽コンクール静岡県東部予選に僕たち吹奏楽部は出場した。奏者20人中16人が中学生だったが、高校の部に出場し見事金賞をとり、県大会に出場することができた。約1週間後に行われた静岡県大会でも、部員それぞれが自分の中で納得できる演奏ができ、銅賞を獲得した。



### チアの世界大会で第2位!

2015年、4月25・26日にアメリカのフロリダのデイズニード貸し切りで行われたUSASF主催 The Dance Worlds. その senior pom という競技に佐々木雛さん(中2)が所属する富士宮市のチアグループ、cheers factory が出場した。世界大会の切符を手にするまでに2つの大会を勝ち抜いてきた。しかも、中学生なのに高校生の部に出場するという初の試みを行ったそうだ。県大会、全国大会共に1位、そしてワールド大会のファイナルまで残り、最終結果は2位に輝いた。初の試みでいろいろ辛いことや上手くいかないこともあったようだが、そのときには仲間が励ましあい頑張ったとこのときが思い出。そんな雛さんにとってチアは生きがいで、そして、なくてはならないものだ。これからは応援していきたいと思う。(中2望月)

### 部活動の今! 高校サッカー部、男女バスケット部

暁秀高校の部活動の中でも厳しい練習を積み重ねているのがサッカー部とバスケット部だ。高校サッカー部は、東部ではシード権をもっている。両部とも、毎日8限の授業を受けた後遅くまで練習している。そこで、今回は以下の三点についてインタビューをした。

- ① 最近の部活のこと
- ② 練習で大変なところ
- ③ 次の試合への意気込み

#### ● 高校サッカー部

渡邊祐耶くん(高2)

- ① 高校3年生の引退がどんどん近づいているが、チームは少しずつ成長している。
- ② 8限までの日が多く、限られた時間内で、練習の密度をあげる必要があるところだ。
- ③ 一戦一戦確実に勝利し、県大会を制覇することが目標。

#### ● 高校男子バスケット部

田内翔太くん(高2)

- ① 練習はとても厳しいが、部員みんな楽しく練習することができていると思う。高校3年生引退後の新チームも成長してきている。
- ② できることをこつこつと増やし、また確実なものとするところだ。
- ③ チーム一丸となり、一戦一戦を大切にすることが一番の目標だ。

#### ● 高校女子バスケット部

山田真理子さん(高1)

- ① 部活は充実していてとても楽しい! 最近は体力もついてきてキツイ練習にも慣れてきたから、以前は行くのに少し抵抗があった男子バスケット部の合同練習も楽しめている!
- ② 高校から始めたのだが、周りには経験者が多く、他と同じメニューをこなすのが大変だ。
- ③ 今の自分たちのレベルは勝敗を気にするようなレベルではないが、一点でも多くとって初めてこのチームで戦う試合を楽しみたい!

(高2増田)

### 熱いぞ! 特別活動

#### 高校1年 職場探訪

毎年、高校1年生は様々な仕事を通じて自分の将来を見据えるために、職場探訪をする。その訪問先は、病院や工場、裁判所まで幅広い選択の中から選ぶことができる。私は検察庁と裁判所に行った。検察庁では職員の方から刑事事件や刑事裁判の説明を受けた。その後、裁判所に行き、実際の刑事裁判を傍聴した。罪状は窃盗だった。審議にはとても時間がかかっていたが、裁判の結果次第で人生を左右する重大な仕事であることを改めて感じた。初めて裁判を傍聴する生徒も多かったので貴重な経験ができた。引率の大嶋先生は、「学校内では絶対にできないようなことが体験できるのが職場探訪の魅力。さらに、学校での勉強が実際に社会でどのように使われているのかを実感してもらおうのが一つの目的でもある。」と活動の意義を語っていた。

(高1梅田・奥村)

#### モンゴルの大自然で四泊五日

モンゴルと静岡県。一見全く関係ないように思えるかもしれないが、実は、モンゴルのドルゴビノ県と静岡県は友好協定を結んでいて、毎年静岡県は、モンゴルに県内高校生を派遣している。今回は、この事業に参加した伊東宏晃くん(高1)にインタビューをした。モンゴルに実際行って感動したこととは、「大自然の景色で、特に、夜の満天の星がきれいだった」と晴れ晴れとした笑顔で語った。また、「モンゴルはまだまだ貧富の差が激しい」ことを実感したそうだが、「思ったよりも独自の技術などがあって驚いた」そうだった。また、人柄も温かく日本人の高校生を歓迎してくれ、現地のガイドさんも面白い人だったので楽しかったよう

(高2増田)

#### 沼津自慢のコレ!

だ。毎年行っている中で、興味のある人は是非参加してみてもいいだろう。(高1宮本)

私たち1年乙組の5人は、今回沼津駅南口付近に建つ老舗洋菓子店の「ドルセ」さんと共に、「コラボ甲子園」というものに参加している。これは5月から10月の5ヶ月間に渡って行われ、沼津市内の高校と企業が連携して沼津市のお土産を製作する企画だ。そして、10月にある最終プレゼンテーションでは各グループの製作したお土産の良さ、対象者、値段など細かい所まで発表し、競い合う。見事一位に輝けば、新東名高速道路の沼津SAのお土産に! まだ、コンペ前なので内容は明らかにできないが、どんなお土産が出来上がるのか自分たちもとても楽しみだ!

(高1山田)



#### 世界に一つ! 中1の陶芸作品はいかに!?

夏休み前最後の一週間、中学1年生は陶芸教室に参加した。建物の中に入ると、たくさん作品が置いてあった。一人ひとつ大きな粘土のかたまりが置いてあり、説明の後、粘土で自由に様々な作品を作った。先生の手を借りる人、自分の手だけで頑張る人など様々だが、十人十色の作品ができていた。最後には出来上がるまでの工程を見せてくださった。たりし、私たちが残った。残った。残った。

(中1岩田)



ニューヨークで開催された国際的な教育キャンプに日本代表として参加した塚本日向くん(中3)を取材した。(by JH3 Sumida)

“At Camp Rising Sun, you just have to be yourself and be open-minded.” Said Hyuga from Junior High grade 3 who participated in CRS this year as the only Japanese representative. He said that open-mindedness was very important at camp because over 60 campers come from all over this world with different backgrounds and cultures. Hyuga also felt cultural difference at camp when he could be himself, expressing his ideas freely. Being assertive is often not appreciated by Japanese society which puts priority on groups rather than individuals. He was surprised because at camp, people were being themselves and never criticized because of that.

During this camp he cooked tempura for 80 campers as one way to teach Japanese culture. It was a huge amount and it was hard for him, but fortunately some of his friends offered to help, so together they cooked tempura for five hours. Hyuga says even though camp lasted only for a month, he could build a good friendship with his friends and he realized that friendship was strong and real when they offered to help and worked through for such a long time.

After he went to CRS he realized the difference between the English used in Japan, and at Camp. He thought that he would be able to talk English without problems using English he learned at school. However, the daily conversation used by campers involved idioms and some slangs so he couldn't understand what they were talking about. He was surprised because he didn't expect this to happen. When he asked the other campers, “Why are you so good at speaking English?” they told him they speak English in daily life even though English is not the first language for them. He realized the importance of speaking English all the time and not just in school, so if you see him, talk to him in English. ☺

#### Bilingual topics

The summer break is a period of time that for the majority of the Bilingual students is crucial to make proper use of due to the IB program's requirement of students being involved in acts of volunteering. This is particularly true for the students who are involved in SA (Service as action) and CAS (Creativity, Action and Service). For students who are in the Diploma Program in their two final years of high school and who are therefore expected to complete CAS, having at least completed 150 hours by the end of 12th grade, it is crucial that they have a clear plan of how they will complete this requirement. Most students do this by making sure to complete as many hours as possible during the summer in ways such as enrolling in summer camps and taking part of volunteer groups that in some manner help one's community in ways varying from helping the elderly at a retirement home to cleaning up a local park.

(SH2 Tsuda)

#### 編集後記

第2号は、課外活動を中心とした記事を集めました。勉強は大切ですが、息抜きや趣味、他の目標を持つことも人として成長するためには大事なことです。暁秀生の勉強以外での活躍がみなさんに伝えられたら、との思いで発行しました。編集している私(高2)にとっては懐かしいものがたくさんありました。ちなみに、中1の陶芸教室で作ったおわんはまだ使っています。(生徒会長 佐野結実)